

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホームいつは		
所在地	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成25年2月26日	評価結果市町受理日	平成25年8月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ただ単にご本人が望むことやできないことを代わりに行ったり手伝ったりするのではなく、一人の「人」としてその方を尊重し、その方の生き方や生活を支えていく。利用者様の見せるちょっとした表情、態度、言葉などから、その時の感情や心の葛藤を汲み取り、「ケアを受ける人の心」を意識しながら、どうすればその方の望む生活に近づいていけるのか、どうしたら新しい可能性を引き出していけるのかを常に考えております。また事業所の隣には『龍遊館』があり、そこでは色々な行事や不定期ですが喫茶店が開かれています。『龍遊館』を利用していただくことにより地域の皆様となじみの関係を築くことができ、利用者様にとっても社会資源を活用し、日々生き生きと楽しみを持った生活を送っていただくことが出来ると思っています。利用者様が「今日も元気だったね」「ご飯が美味しかったね」「今日も楽しかったね」と感じていただけるようなケアを目指しています。

昨年夏より理学療法士によるリハビリに開始し、大腿部骨折後の訓練や認知症の方の脳賦活訓練など取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いや希望に添えるように、生活習慣や人生経験、家族関係等一人ひとりの背景を把握する方法について職員間で話し合い、事業所独自の「思いの把握シート」を作成され、日常のケアの中で職員が感じたこと、知り得たことを記録し共有しておられます。マンドリンやハーモニカ演奏、漫才、日本舞踊などのボランティアの来訪を楽しみにされたり、生け花、編み物、ヨーヨーキルト、調理、掃除など一人ひとりの趣味やできること、したいことなど、活躍できる場面を多くつくられている他、季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、紫陽花、紅葉狩りなど)や初詣、花火大会、運動会の見学、ドライブ、(江汐公園、焼野海岸など)、喫茶店、個別の外出に出かける他、家族の協力を得て外出、外食、法事、馴染みの美容院など懐かしい場所へ出かけることで気分転換や五感刺激の機会とされ、外出を楽しまれるなど、利用者が喜びや張合いのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(利用者様と職員が共に笑顔で過ごせるよう安心・快適なサービスを提供します。利用者様の歩んでこられた人生を尊重し、心寄り添う介護を実現します。地域の皆様に愛される存在になります。)を介護目標として唱和、実践しています	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念と職員全員で作成した介護目標を名札の中に常に携帯し、毎朝、唱和して共有し、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しています。日常生活での必要品等、職員と利用者様とで近隣のスーパーへ買い物に行っています。地域の「住吉まつり」にも参加予定です	自治会に加入している。地域の神社の祭りでは催し物会場の提供や準備を手伝い、地域の人が事業所内に自由に出入りできるようにし、展示している利用者の作品を鑑賞してもらっている。ボランティア(手話、日本舞踊、ハーモニカ、フラダンス、傾聴、マンドリン演奏、漫才等)の来訪や隣接する喫茶店、スーパーでの買物、幼稚園の運動会見学、散歩等で出会う人などと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的に関き、地域の方にも参加していただき、事例等を紹介しながら認知症の方の理解、支援への協力をお願いしています		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けるということで、職員全員で日頃の業務を顧みることが出来、評価項目と日々の業務内容を照らし合わせ、より良い方向へと改善努力をしています	管理者が評価の意義を説明し、項目毎に担当職員を決めて記載した後、話し合いまとめている。評価を、ケアの振り返りと捉え、ケアマニュアル(食事、入浴、排泄)の作成に全員で取り組むなど、具体的改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の利用状況・利用者様の生活の様子を報告し、質問・意見・助言をいただいてよりそのことについて職員へ報告。意見や改善案を皆で考えより良い質の向上に努めています	年6回開催し、職員研修の報告、ヒヤリハット報告、看取りケアについて、サービス提供報告、外部評価結果等について報告し、嚥下食の試食や防災時の地域との夜間対応の取り組みなどについて話し合っている。参加者から各種マニュアル作成についての意見が出され、取り組むなどサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加していただきケアサービスへの取り組み状況を報告しています。また困難な事例等がありました際には連絡を取り助言・指導をいただいています	市担当課とは運営推進会議時の他、電話で相談や情報交換を行い、地域包括支援センターとは成年後見制度や困難事例について相談や情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行いながら、日々のカンファレンス時にも職員全員で「身体拘束をしないケアを行う」ということを確認しながら努めています。現在歩行不安定な方が数名いらっしゃいますが、安全を確認しながら職員が寄り添い歩行していただいています	指針があり、内部研修を実施し、職員は身体拘束について理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては主任が指導をしている。事業所玄関は2階にあり、安全への配慮から施錠をしている。	・施錠をしない工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての報道があった際には、必ず職員へ事例を紹介し「虐待は絶対にあってはいけないこと」と繰り返し確認しています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用されている利用者がいらっしゃいます。また職員会議等を利用して必要性を学んでいます		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族様には丁寧に説明させていただき、疑問点や、より詳しい説明を要望される際には、納得頂けるまできちんと対応させていただいています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の説明時に意見・苦情に対する受け付け体制の理解をしていただいています。また常に利用者様・ご家族様からの声を聴き、何か問題があれば上司へ報告し、素早い対応に努めています	第三者委員や相談苦情の受付体制を明示し、苦情処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。運営推進会議や面会時、便り送付時、電話などで、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。意思を伝えることが困難な利用者の外出機会を増やして欲しいという要望について取組むなど運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・または直属の上司にて、日頃より、苑の運営方法についての意見や改善してほしいことがないか、職員一人ひとり声を掛け職場環境の改善に努めています	月1回のミーティング時や日常の関わりの中で意見を聞く機会を設けている。夜勤者の勤務体制や入浴介助のためのシャワーチェアの活用の他、介護マニュアル作成等の提案があり運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに、勤務形態に無理がないかを聞き、極力働きやすい環境を整えるよう努めている。また仕事にやりがいを持つことが出来るよう指導に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員研修の際に理学療法士・看護師・または社外の業者を招いての研修を取り入れています。また職員へも様々な研修への参加を呼び掛けています	外部研修は情報を提供し、段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、復命報告をして職員間で共有している。内部研修は月に1回、勤務の一環として全職員が参加し、誤嚥時の対応や身体拘束、感染症等について実施している。新人研修は法人研修を受講した後、日々のケアの中で管理者や看護師、理学療法士等が指導している。資格取得については受講料の支援や勤務調整をするなど、支援している。ケアマネ協議会への勉強会にも参加するなど職員が学ぶ機会を多く確保している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会へ参加しており、他施設との情報交換や勉強会へ参加しています		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、または本人様より不安なこと、困っている事、要望を丁寧に聞き取りサービスの内容に取り込み安心して生活していただくことができますよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して任せていただくことが出来ますようご家族さまの困っている事、不安なことなどにしっかりと耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めています。また利用者様の小さな変化もすぐに家族様へ連絡・報告しています		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様・本人様と何に困っているのか、どんな支援を必要としているのかを十分に話し合いサービスに取り込んでいます。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場にある利用者様の辛さを理解し、出来ることは行っていたき、また人生の大先輩でいらっしゃることに、良きアドバイスをいただきながら信頼関係を築けるよう努めています		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の小さな変化であっても面会時や電話にてご家族様へ報告し、共に協力して本人様を支えていくことが出来るよう努めています。また外出も自由に行っていただいています		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可があればなじみの方との面会は自由に行っていただいています。また自宅や馴染の場所にも職員と共に行っております	友人や知人、昔の職場の同僚の来訪、他施設利用の知人の訪問がある他、自宅訪問や年賀状、電話の取次ぎの支援、家族の協力を得て法事や外泊、外食、美容院に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の性格・個性を把握し、利用者様間で嫌な思いをされることのないよう職員が間に入り良い交流が保てるよう配慮しています。また席の位置にも配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院後の在宅復帰や施設探し等の相談、情報の提供を行っております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様担当を決め、担当者を主として本人様の思い・希望等を把握し、ユニット内の全職員、または上司と相談行いながら、少しでも本人様の意向に沿うことが出来るよう努めています	入居時のアセスメントの他、一人ひとりの思いを一つでもかなえるために、事業所独自の「思いの把握シート」を作成して、日常の中での言葉や行動を記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間での話し合いや家族からの情報をもとに本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用されるまでの経緯、家族構成、家庭名での役割、職歴、住んでいらった地域、趣味活動等を家族様やご本人様から継続的に聞き取り、個々のサービスに取り込んでいます		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り時にカンファレンスを行い、利用者様の心理状態、言動に変化が見られないかを皆で確認、把握している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、他職員、ご家族様にも意見を聞き今現在の利用者様の現状に沿った介護計画書の作成に努めています	計画作成者とユニットリーダー、利用者の担当職員を中心に、カンファレンスを開催し、利用者や家族の意向、主治医、看護師等の意見やアイデアを反映して計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをする他、要望や状況に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて見直すなど現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録や利用者様申し送り簿の活用、またカンファレンスにて職員間で情報を共有し、担当者や上司とも相談し介護計画の見直しを行っています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅が近い方で、庭に花を植え育てたいとの要望有。曜日を決め職員と共に自宅にて花の手入れを行う、ということに取り組んでいます		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力と理解を得て、公共施設等を利用し、安全で落ち着いた環境にて日々の生活をゆつくりと楽しんでいただけるよう努めています		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望するかかりつけ医となっています。ご本人様の小さな体調の変化や気になること等常に連絡行い、主治医より指示を得ながら支援しております	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の往診がある。他科受診は家族の協力を得る他、必要に応じて事業所が受診の支援をしている。服薬を含めて受診結果の情報交換を行い、共有し、緊急時の対応があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック・食事量・排泄の状態・ご本人様の表情・動作・皮膚の状態等小さな気づきであっても事業所内看護師、不在であれば電話連絡にて報告行い指示を得ています		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から他医療機関とは良い関係が保てるよう情報交換・連携を取らせていただいています。また利用者様入院時には情報提供を行い、可能な限り毎日お見舞いに行かせていただき状況の把握に努めています。退院される際にも速やかな受け入れ対応行っています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「利用者様の重度化及び看取り看護に関する指針」に沿って丁寧に説明行い理解していただいています。ご家族様の思いに沿わせていただきながら、どのように最後を看取るのかを何度も話し合い支援させていただきます	指針があり、契約時に重度化した場合に事業所ができる対応について、医療機関や他施設への移設も含めて、家族に説明している。実際に重度化した場合には出来るだけ早い段階から本人、家族、主治医、看護師等関係者で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。看取りの研修も実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやり・はつとが出てからではなく個々の利用者様ごとに何がリスクとなっているのか、危険な場所はないかを担当者を主として考え、未然に危険を回避することが出来るよう取り組んでいます。ミーティング時を利用して全職員応急手当や初期対応が出来るよう取り組んでいます	ヒヤリハットに記録し、その日の主任と職員で改善策について話し合い、1週間以内に全職員で改善策を検討し、その後職員会議で再度検討して、確認し、共有して一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応(転倒、骨折)と、看護師の指導による誤嚥時の異物除去の方法についての実践的な研修をしているが、事故発生に備えて実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、また消防署よりの検査・指導を受けています。職員の緊急連絡網訓練も行っています	消防署の協力を得て、火災を想定して、定期的に避難訓練や消火訓練、避難経路の確認、通報訓練(緊急機器の使い方や職員の緊急連絡網)を実施している。運営推進会議でも話題として取り上げ、地域の人の参加や協力について話し合っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴を把握し、輝いていた頃の姿を想像しながら、誇りを傷つけることのないよう言葉かけ等に注意し対応しています。またトイレ時・入浴時には恥ずかしという思いに配慮して対応しています	職員は内部研修で学び、一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや守秘義務について確保している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中から、今何を望んでいるのか、どのような気持ちの状態なのかを汲み取ることが出来るよう努力しています。また自己決定していただくことが出来るよう支援しています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事の時間・入浴の時間・入眠時間等職員の時間の流れでなく、ご利用者様の思いを優先させていただいています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選べる方には選んでいただき、選べない方には季節やその日の天候、またご利用様が好まれると思う衣類に更衣していただく。長くなった髪は定期的にカット行い、女性の方にはお化粧の声掛けも行っています		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様の嚥下状態・口腔内の状態・嗜好・義歯の有無等把握し個々に合った食事の形態を提供しています。食事の盛り付け、後片付けをご利用者様と共にしています	食事は法人からの配食を利用している。毎週金曜日には利用者の好みを聞いて献立を作成し、利用者と一緒に昼食を作っている。利用者は調理や下ごしらえ、味付け、盛り付けなど出来ることをしている。食事の形態の工夫や目でも楽しめるよう食器の工夫もしている。季節の行事食やおやつづくり(ぜんざいやゼリーなど)、月1回ある事業所の喫茶、利用者と担当職員での個別の夕食、家族の協力を得ての夕食など食事を楽しむことの出来る支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し、毎日の食事量・水分量の把握に努めています。食事量・水分量低下気味の方には、本人様、または家族様より好んで飲食されていた物を聞きとり担当者にて用意し、食事量が増えるよう努めています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアの声掛け行っています。自らできる方には行っていただき後でチェックさせていただいています。出来ない方には介助にて行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて各利用者様の排泄パターンを確認し、定時のトイレ誘導・パッドの確認を行っています。また常に紙オムツ・パッドを外すことが出来ないかを考え支援しています	排泄チェック表で一人ひとりの排泄のリズムや習慣を把握して、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無を毎日確認しています。排便困難な方には腹部や腰を温める・腹部のマッサージ・野菜ジュース・軽い運動・また研修会にて勉強したオリゴ糖を使用してみるなど、いろいろと取り組み改善に努めています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようにしております。一人ひとりに声掛け行い、毎日入りたい方には毎日入っていただき、また入浴があまり好きでない方には手浴・足浴・清拭・更衣等で対応しながらタイミングを見て入浴にお誘いしています	14時から16時の間、希望すれば毎日、ゆっくりと入浴できるを支援している。入浴したくない人には職員の交代やタイミング、声かけの工夫をして対応している。利用者の状態によっては、手浴や足浴等部分浴、清拭、シャワー浴などの対応をしている。柚子や菖蒲を入れて季節を楽しむなど個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間はご本人様の意思にお任せしています。なかなか休めない方には夜勤者と共に暖かい物を飲んでいただいたり、少しお話しをしたりして、自ら休みたくなられてより入床していただいています。室内の環境にも気を付けています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が現在服薬されている薬は各ユニット職員全員で確認しております。また何のために服薬されているのか、副作用は、なども把握するようにしております。利用者様に変化が見られる時にはすぐに主治医へ報告し指示を得ています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常にご利用者さまには今何かしたい事はないか、行ってみたい所はないか、食べたい物はないか、昔好んで行っていたことは何か、趣味はなどを尋ねています。その中で実現できそうなことは実行し、「楽しかったね」と言っていただけの日が増えるよう努めています	新聞や週刊誌を読む、テレビ視聴、ぬり絵、編み物、じゃんけん大会、ボーリング、パターゴルフ、ボール遊び、パズル、七夕飾りや生け花、ヨーヨーキルト、壁面工作づくり、ボランティア(マンドリンコンサート、ハーモニカ演奏、日本舞踊、漫才など)の来訪での交流、季節行事(節分、雛祭り、夏祭り、花火大会、月見、クリスマス会、餅つき)、調理や配膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、おやつづくりなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不意なご家族様の面会や外出、また外泊も自由に行ってもらっています。ご利用者様の思いをご家族様に伝え、ご家族様の協力のもと、職員と共にの外出支援も行っています。近隣のスーパーへの買い物にも職員と共に掛かっています	散歩や買物、喫茶店でお茶を楽しむ、季節の花見(桜、つつじ、紫陽花、紅葉狩りなど)、初詣、幼稚園の運動会見学、夏祭り、花火大会、ドライブ(焼野海岸、竜王山、江汐公園)に出かける他、家族の協力を得て馴染みの美容院や買物、外食、外出、法事に出かけるなど、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は紛失されないよう施設にてお預かりしていますが、職員と共に外出し買い物をされる際には、お預かりしているお金を必要なほど財布に収めていただき、その中から支払っていただいています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が希望された際にはいつでも電話していただけるようにしています。年賀状を自ら書ける方には書いていただき、書けない方には職員の応援にて家族様へ送らせていただいています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には常に季節感が出るよう壁面飾りを工夫しています。また換気・温度・臭い・生活音に気をつけ、ご利用様が不快な思いをすることがないように配慮しています。大窓からはたっぷりとした日差しが入り居心地良く過ごしていただいていると思われす	リビングは広く、大きな窓から入ってくる日差しで室内は明るく、温度や湿度、換気に配慮した居心地よい空間となっている。窓辺やテレビの前には大きなソファを配置し畳コーナーとともにゆったりとした居場所となっている。壁面には季節の貼り絵作品が飾っており、ユニットの入り口にはぬり絵やヨーヨーキルトを飾っている。窓からは地域の家並みや季節の花木を眺めることができる。中央にあるキッチンと食卓は対面になっており、食事の準備、盛り付け、後片付けができ、料理の匂いがして生活感がある。浴室やトイレ、室内は清潔で手すりを設置し、安全で居心地よく過ごせるよう工夫出来ている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用様にゆっくりとくつろいでいただくことが出来るよう、時にはテーブル・ソファの位置を変え、より落ち着いていただくことが出来る環境作りに努めています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様へお願いし、ご利用様が愛用されていた物、また大事にされていた物で、居室へ持ち込んでいただけるものがありましたら、持参して下さるようお願いしています。	時計やぬいぐるみ人形、写真、ぬり絵作品など使い慣れた物や好みのものを持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・居室・トイレ・浴室と必要な箇所には手すりを設置しています。また床面には段差がないため歩行不安定な方にも職員の見守りのもと自らの意思で移動していただくことが出来ています		

2. 目標達成計画

事業所名：グループホームいつは

作成日：平成 25年 8月 30日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	施錠をしない工夫	グループホームへの出入り口ドア・グループホーム内のすべてのドアの施錠をしない	初めは時間を決めて短時間より解放していく。後、様子をみながら時間を長くしていき、日勤帯の時間(8時30分～17時30分)はすべての出入り口を開錠していけるようにする	1年
2	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や、初期対応の定期的な訓練の実施	利用者様の不意の事故・傷病に、あわてず、落ち着いて全職員が対応できるようにする	全職員が初期対応を行うことができるかのチェックリストを作成し、毎月出来ること、出来ないことの確認を行う。出来ないことは看護師・主任が指導行い、全職員があわてず、落ち着いて初期対応できるようにしておく	1年
3	36	地域との協力体制の構築	天災・人災等があった際には地域の応援を得て、あわてず、速やかに利用者様に避難していただく事が出来る	避難訓練に地域の方の参加をお願いし、どの場所にどの様な方がいらっしゃるかを伝える。また、職員が利用者様に扮して麻痺のある方の誘導方、寝たきりの方の誘導方を伝え、安全な経路で避難することができるよう実践する	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。